ぼくが思うこと

赤岡小学校六年　浜口　侑大

ぼくは、友だちとのトラブルが原因であったり、勉強が苦手だったりして、学校に通えなかったり、教室に入りにくくなってしまったりする人たちの話を聞きました。また、その人たちがそんな風になってしまった理由を知らないのに、「勉強しないで遊んでいる。」や「楽しい時だけ学校に来る。」と悪く言う人がいることも知りました。そんな人の気持ちを考えないで、苦しんでいる人をより苦しめる発言をする人をぼくは許せません。教室に入れない人も、がんばって学校に来ています。そのがんばりを認めないで悪く言うのは違うと思います。

ぼくは、教室に入れない友だちがいた場合は、原因を知っているときはその原因を考えた接し方をしてあげたいです。できるだけ声をかけたり、遊びに誘ったりして教室に戻れる雰囲気を作っていきます。

20 × 20

実際、ぼくの学級では、相手の気持ちを考えない発言を聞くこともあります。それでは教室にいる人はもちろんですが、教室に入れない人もますます入りづらくなります。笑いながら言っているので、冗談だということはわかるのですが、聞く人によっては冗談とならえない人がいるかもしれません。一番いいのは、冗談でも遊びでも、相手が嫌な気持ちがしそうなことを言わないことだと思います。もし、言ってしまった後でも、相手が嫌な顔をしたり、自分が傷つけることを言ってしまったと感じたりしたときは素直に謝ることも大事だと思います。

謝るには勇気が必要です。ぼくも今までに素直に謝ることができないときがありました。謝れないでいるときは、いつまでも心の中が苦しいままです。でも、がんばって謝ることで心がすっきりします。友だちとの関係も今まで通りになります。「ごめん。」という言葉と、その後自分の気持ちを伝えることで、

相手に少しでも楽になってもらおうと思います。ちょっとの勇気を出すまでに時間がかかる人もいるので、ぼくはいつまでも勇気が出るのを待ちたいと思います。

この作文を書きながら、これ以上いじめや差別でつらい思いをする人が増えてほしくないと思いました。みんなが楽しく過ごせる学校や社会になってほしいです。まず、教室に入れない人がいなくなり、学級みんなで学習や生活を安心して安全にできるようにぼくは願っています。

20 × 20